『丈夫だから』は禁物

健康保障はレントゲンで

最近結核で死ぬ人が少なくなってきたためか、一般的に結核に対する警戒心がうすくなってきたようです。しかし、まだまだ結核が恐ろしい病気であることに変りはありませんので、あなたや家族の健康と幸福を保障するためにもレントゲンによる結核健康診断を是非うけられるよう、おすすめいたします。

○なぜ結核の健康診断をうけねばならないか

結核は、結核菌によって誰にでもうつる伝染病（慢性）だからです。しかも、日本では今なお、結核菌に感染する者が非常に多く、また発病する者もかなり多いからです。三十～四十才台の人たちについて調べてみますと、その約八～九％が結核菌に感染しています。感染した人がすべて結核になるわけではありません。その危険性はあるわけです。近頃は年令の高い人たちに、発病する人が多くなっています。

結核菌に感染しているかどうかは、結核にかかっているかどうかが健康診断によって分ります。

○結核菌に感染しているかいないかはどうして分るか

結核菌が人のからだの中に入って数週間たつとそこで結核菌が成長するために、排出する物質によって、その人のからだの組織が感感になります。ツベルクリン液を少量皮肉に注射すると、そこのところが二～三日こうらに赤くはれてきます。これをツ反応陽性といい、この検査をツ反応検査といいます。もしツ反応陽性といって結核菌に感染しているということをあらわしています。病気にかかったかどうかは、レントゲン写真で分ります。

○結核にかかれば微熱や咳がでて自分でもわかるというが

結核という病気はそういった自覚症状がないというやっかいな病気なのです。また「健康に注意しているから」「年寄りだから」「環境がいいから」などと自分があるからなどと自分では思っていても、結核にかからないとは断言出来ないのです。

その証拠には、外見健康そうな人でも、健康診断の結核病気だといわれる場合が少なくありません。厚生省の調べでは、健康診断で実際に発見された患者の六割は、自覚症状がないと言われています。

微熱や咳が何日もつづいてでるからといって、必らずしも結核にかかっているとは限りません。

結核菌が人のからだの中に入って数週間たつとそこで結核菌が成長するために、排出する物質によって、その人のからだの組織が感感になります。ツベルクリン液を少量皮肉に注射すると、そこのところが二～三日こうらに赤くはれてきます。これをツ反応陽性といい、この検査をツ反応検査といいます。もしツ反応陽性といって結核菌に感染しているということをあらわしています。病気にかかったかどうかは、レントゲン写真で分ります。

○結核にかからないようにするには、どうすればよいか

結核にかからないように、「丈夫だから」は禁物です。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年かかります。

結核菌は、人の体内に入ってから、発病するまでに、一～二年か